

## 事業報告 2020年1月1日から12月31日

2020年はコロナ禍の中で多くの事業が影響を受けた。NPO法人エッジとしては従来よりテレワークへの変更、オンラインでの講座の実施などに取り組んでいたが、一気に各事業でオンライン化が加速した一年であった。

### 運営(柴田、西島、根川)

事務所移転:事務所の契約更新時期とコロナ禍でテレワーク、講座のオンライン化が重なり、賃貸の事務所ではなくシェアオフィスに転居した。固定費が大幅に軽減された。月 25 万円から 10 万円に減額。(家賃、光熱、通信費、リース代、消耗品など)

収支:これまで取り組んできた各事業の支出が減り、売り上げが増加した。特に LSA 養成講座の本コースは例年 20 名ほどの受講者だったが、オンライン受講にしたことにより 50 名を超え、遠くはスイスからも受講者がある。

コロナへの対応:事務所内の連絡や書類のやり取りなどをオンライン化(CyBOSE と KINTONE)をしてきていたがステイホームの呼びかけを機に柴田氏を除いて 3 月末よりほとんど全員がテレワークに転じた。

BEAM 事業、LSA 事業、相談・アセスメント、DX セミナーなどをオンラインでの実施に変更した。時間、距離などに関係なく参加できることとなり、以前より受講者などが確実に増えている。巣ごもり需要に合致したようで、MOOC で提供している講座も対面で受けられる講座が減ったことと自分の都合の良い時間帯で受けられることなどから受講生が増えた。書籍などもオンラインで購入できるショップを通して販売が増えた。

新規事業として相談・アセスメントがあるが、こちらも対面ではなくオンラインで対応が進み、また助成金もあり、港区の教育委員会の協力を得て、説明会から相談アセスメントに進むケースが増えた、海外からの問い合わせも多い。

寄付額は人数は増えたが、コロナの影響を受け、大口が少なくなった。

寄付実績(賛助会員 11、パートナーズ 23、正会員 23、一般の寄付 28)

3000 円以上の正寄附 85(11/13 現在)

参考資料 正寄附 79(2019/11/30)

合計額 924,543(11/16)

参考資料 4,335,462(2019/11/30)

## 事業活動報告

### 1) 啓発 (藤堂、柴田、辻)

DX セミナー 大庭、辻、藤堂

DX セミナー 1月⑤ 2月⑬ 5月⑮ 6月⑱ 7月⑲ 8月⑥ 9月⑧ 11月⑳

5月から ZOOM にて実施

二部制にして入門とトピックにした(合理的な配慮、留学、具体的な支援など)

11月、12月は MICAL 上映後保護者のトーク

ニュースレター 柴田

(52号(2月25日), 53号(7月25日), 54号(10月25日) 会員、寄付者等に毎回200人に発送、そのあとウェブに掲載

メルマガ 柴田

メルマガ 1~11(11回) 毎月10日発行 各回3000件送信

フェイスブック 藤堂 柴田

週に2,3記事を掲載。読み書きに関する国の動き、講座などのお知らせ、海外のニュースなど フォロワー4000名ほど

### 2) BEAM (文部科学省委託事業) 藤堂、上田、鴨井、中嶋 (詳細別紙1)

小学校の改定、中学校の改定に取り組む

対費用効果を考え、普及に力を入れる。コロナの影響で全国行脚ができなかったが作業は進んだ。

### 3) MOOC 英語 日本からの受講300名 テキスト

こちらからの働きかけはないが、日本語訳のテキストはコンスタントに売れている。

MOOC 日本語 受講生数 80名 (藤堂、鴨井) テキスト @5000 40万円

コース受講者への直接的な働きかけができない。テキストはコンスタントに売れている。

#### 4) LSA 講座 (藤堂、高尾)テキスト

オンライン授業に変更し、ほとんどの講座を ZOOM にて提供。受講生が大幅に増加、54 名。これまでは関東圏からの受講者が主であったが今回はスイスからも参加あり。約 400 万円

#### 5) 相談・アセスメント(樋口) (詳細は別紙2)

従来の相談・アセスメントをオンラインでできるように変更。

東京都子ども輝く東京・応援事業 (藤堂、河野、上田、大庭、樋口)

1) 港区保護者・支援者向け説明会 日程:10 月 28 日(水)、11 月 18 日(水)の2回実施  
140 名参加

2) アセッサー養成講座 I 参加者:11 名 講師河野

3) Kintone 上のアプリについて

相談・アセスメントの申し込みから当日までの流れを Kintone 上で漏れのないように管理  
(申込 → 日程調整 → 案内メール送信 → 入金・個人票受領の確認 → ZOOM アドレス  
の送信) 今後、アセッサーの日程調整にも使用する予定

4) アプリにしてからの相談・アセスメントの件数(カッコ内は港区説明会からの人数)

運用開始 7 月 20 日、相談件数 32 件 (11 件)、アセスメント 25 件 (10 件)

アセッサー養成講座 河野先生を講師に 11 名参加中

#### 6) ジョリーフォニックス(高尾、柴田)山下、丸山、藤堂(亜美)

3 月、7 月、12 月 7 名 受講

51.8 万円

コロナの影響で山下先生が来日が叶わないため藤堂亜美が 3 月に講師、7 月と 12 月  
は日程を変更して丸山先生に講師をお願いした。

#### 7) DX 会 2⑥ 6③ 8③ 10④ 近郊を散策

#### 8) APDF2020 2021 年 5 月 8 日、9 日に延期、岡山コンベンションセンター

国際交流基金、岡山市助成

事務局を読み書き配慮に委託して 2021 年 1 月から再稼働

9) 書籍販売:

ディスレクシアでも活躍できる、英語テキスト、日本語テキスト、LSA テキスト、カレンダー 合計  
50万円以上

## 詳細 2) BEAM

### 令和 2 年度 BEAM 申込者数

#### 団体申請

全国公立小中学校 14 校  
私立初等科 1 校  
放課後等デイサービス・個人塾 4 校  
教育委員会 3(東広島・渋谷区・熊本阿蘇)  
大学研究室 1(東北大学川崎研究室)

合計 23 団体(12/31 現在)

#### 個人申請

学校教員 29 名  
学校外支援者 7 名  
保護者 206 名  
本人 9 名

合計 251 名(12/31 現在)

### ●作成教科書

#### 小学校国語・4社 (本年度全改定)

学校図書  
教育出版  
東京書籍  
光村図書

全6学年(上・下巻含む)44 冊

#### 小学校社会・3社 (本年度全改定)

教育出版  
東京書籍  
日本教育出版

全 4 学年(上・下巻含む)17 冊

#### 中学校国語・5社 (令和 2 年修正対応)

学校図書  
教育出版  
東京書籍  
光村図書  
三省堂

全 3 学年 15 冊

#### 中学校歴史 (令和 2 年修正対応)

育鵬社  
教育出版  
清水書院  
帝国書院  
東京書籍  
日本文教出版

全6社 6 冊

**中学校地理** (令和 2 年修正対応)

教育出版

帝国書院

東京書籍

日本文教出版

**全 4 社 4 冊**

**中学校公民** (令和 2 年修正対応)

教育出版

清水書院

帝国書院

東京書籍

日本文教出版

**全 5 社**

## ●令和 2 年度 BEAM 周知活動について

本年度は、年度初めからコロナの影響でスタッフはテレワークへ、会議は ZOOM やライン通話へと変更。毎年行われていた全国を訪れての周知活動は中止となりました。

教員・支援者・保護者対象に文科省で毎年行われている支援教材の説明会も中止となり、BEAM の紹介・事例・使用方法の説明 PDF 資料と、藤堂による BEAM 紹介動画を制作し、以下のサイトで公開することとなりました。

### 文科省 HP

[https://www.mext.go.jp/content/20200925-mxt\\_kyokasyo01-000010135\\_005.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200925-mxt_kyokasyo01-000010135_005.pdf)

<https://www.youtube.com/watch?v=Qvha-PacFBY&feature=youtu.be>

## ●BEAM 説明動画制作について

コロナの影響で周知活動が困難な中、対象者と BEAM が出会う機会をつくること、ディスレクシアに対する認識の不足により起こっている誤った使用法を正してもらう目的で、文科省 HP の動画とは別に、youtube を利用した BEAM 紹介動画の制作・公開を計画しています。現在完成している動画の一部を編集作業中です。

BEAM の申請・利用の障壁になっている問題や、効果的な利用方法、本人・保護者・支援者にディスレクシアへの認識を高めてもらう方法について話し合い、効率化や問題点を抽出いたしました。視聴者の目的に合わせてスムーズにアクセスできるよう、動画の構成を目的別に絞り、短い時間でポイント別に理解していただける構成で順次制作していく予定です。

## ●BEAM ウェブセミナーについて

年末のスタッフミーティングで、説明動画だけでなく、BEAM をまだ知らない方や申請者に向けて直接ご説明する機会を設けようという事となり、DX セミナー(ZOOM)内での BEAM 説明会を 1/18 日に設定いたしました。来年度は単独の ZOOM セミナーも企画し、コロナ禍においてもインターネットを活用し、正しい利用方法を含めた積極的な周知活動を行っていきたいと思います。

## ●BEAM 申請者に向けてのアンケート結果より

今年度 BEAM を申請した個人や団体を対象に、12 月にアンケート調査を実施しました。このアンケートは、毎年ほぼ同一の時期に、同一の内容で実施しているものです。個人では、228

名への送付に対し、44名の回答が寄せられ、団体では 21 件への送付に対し、7件からの回答を得ました。

団体に関しては件数が少ないため、まだ十分な考察ができていませんが、個人のアンケートからみられるいくつかの傾向等についてご紹介します。

個人へのアンケートからは、ほぼ例年と同じような傾向がみられましたが、特に使用機器に関しては、今回初めて「タブレット」が、「パソコン」を上回りました。スマートフォンとタブレットを合わせると、パソコンの2倍の使用率となります。この傾向は年々顕著になってきており、スマートフォンやタブレットを使っただけの今後の学習のあり方に一層注目していく必要があると思われます。今回音声の「速度」に関する質問を新たに付け加えましたが、「ちょうどよい」という答えが四分の三を占めていました。「速度調整ができるかどうか」といった質問をよく受けますが、実際に聞いてみると、余り速すぎる、遅すぎるといった違和感なく使われているのかもしれませんが、ただ、聞きやすい速度に関しては個人差が大きいため、その調整をするための情報は今後もしっかり提供していく必要があると考えます。

また、具体的にBEAMをどのように使っているかも今回質問内容に付け加えました。その結果によると、教科書は見ずに音声だけを聞いている、教科書は眺めているが文字は追わずに音声に集中している、あるいは教科書の文字を追っていると集中できないといった声が、ほぼ四分の三を占めていました。このことはつまり、BEAMの「音声のみ」という特徴をかなり生かした使い方をされているように思われます。BEAMでは、主要な目的を「音声から内容を理解する」というところにおいていますが、実際には申請者（親御さんの場合が個人申請では殆どである）の意向の中に「音読がスムーズにできるようになる」といった目的をあげる声も多いのです。つまりやはり「内容を理解する」ことより「文字を読む」ということに学習の意義を見出してしまうがちなのではないかと思われます。しかし、実際の子ども達の使用では、このように内容理解に使われていることが多いのではないかと、ちょっと心強くなる結果でした。

今BEAMチームでは、こうした効果的なBEAMの使い方に関する動画を作成中であり、そのあたりの「文字を媒介にせずとも直接内容理解につなげていく＝耳から聞いて理解する」というコンセプトがしっかりと伝わるようなものを作成したいと考えています。

## 5) 相談・アセスメント(樋口) (詳細は別紙2)

従来の相談・アセスメントをオンラインでできるように変更。

東京都子ども輝く東京・応援事業（藤堂、河野、上田、大庭、樋口）

港区保護者・支援者向け説明会

日程：10月28日(水)、11月18日(水)の2回実施

場所：港区白金の丘学園ホール

講師：藤堂栄子、大庭亜紀



参加者:10月28日 70名  
11月18日 71名

2) アセッサー養成講座 I

日程:11月7日(土)、8日(日)、22日(日)、23日(月)

場所:Mingleのセミナールーム

講師:河野俊寛

参加者:11名

3) アセッサー養成講座 II

日程 1月30日(土)、31日(日)

場所:ZOOM開催

講師:河野俊寛

参加者:11名

3) Kintone 上のアプリについて

相談・アセスメントの申し込みから当日までの流れを Kintone 上で漏れのないように管理

作業者:藤堂、柴田、樋口

(申込 → 日程調整 → 案内メール送信 → 入金・個人票受領の確認 → ZOOM アドレスの送信)

今後、アセッサーの日程調整にも使用する予定

4) アプリにしてからの相談・アセスメントの件数(カッコ内は港区説明会からの人数)

運用開始 7月20日

相談件数 32件 (11件)

アセスメント 25件 (10件)

アセッサー養成講座 河野先生を講師に11名参加中

2020年度 LSA 講座 本コース

本コース			受講料 65,000円			
第1回 7月12日 (日)	オンライン	10:00~ 12:30	発達障害への支援を考える	認定NPO法人 EDGE	藤堂栄子	オリエンテーション
		13:30~ 15:30		星槎大学大学院	阿部利彦	学習支援員の応援計画
第2回 8月1日 ~31日	e-learning		マルチプルインテリジェンスの活かし方	建築デザイナー(当事者)	藤堂高直	DX(ディレクシア)型の生き方・活かし方
				国立特別支援教育総合研究所	涌井恵	マルチプルインテリジェンスを使ったアプローチ
第3回 9月13日 (日)	オンライン	10:00~ 12:00	インクルーシブな支援	東京都内特別支援学校	川上康則	発達につまずきから読み解く支援アプローチ
		12:50~ 14:20		厚生労働省発達障害施策調整官	田中尚樹	インクルーシブな支援と今後の展望
		14:30~ 16:00		えじそんくらぶ	高山恵子	ストレスマネジメント
第4回 10月1日 ~31日	e-learning		支援の実際	認定NPO法人 EDGE	藤堂栄子	LSA(学習支援員)としての役割とは
				認定NPO法人 EDGE	藤堂栄子	英語の支援
第5回 10月25日 (日)	ライブ オンライン	10:00~ 12:00	合理的な配慮	東京都公立小学校	田中博司	UDな授業
		12:50~ 14:20		東京大学先端科学技術研究センター人間支援工学分野特任助教	平林ルミ	学び方の異なる子どもたちが通常の学級で学ぶための工夫 ~タブレットを紙と鉛筆の代わりにして学ぶ~
		14:30~ 16:00		小田原市立足柄小学校	上條大志	インクルーシブな国語の支援
第6回 11月15日 (日)	ライブ オンライン	10:00~ 12:00	支援スキル	文部科学省特別支援教育調査官	加藤 典子	特別支援教育の今後の方向性 ~学習指導要領の改訂と合理的配慮を中心に~
		12:50~ 14:20		スクールソーシャルワーカー	武隈智美	自己肯定感を育てる演習
		14:30~ 16:00		武庫川女子大学 教育研究所/大学院臨床教育学研究科/子ども発達科学研究センター 教授	中井昭夫	子どもの睡眠障害の正しい理解にむけて ~ICT依存にも触れて~
第7回 11月29日 (日)	ライブ オンライン	10:00~ 12:00	基本の「き」一丁目一番地	認定NPO法人 EDGE	藤堂栄子	読み、書き、計算、不器用さの疑似体験
		13:00~ 16:00		NPO支援機器普及促進協会	高松崇	ICTを使った支援
第8回 12月13日 (日)	ライブ オンライン	10:00~ 12:00	義務教育後も使える支援	株式会社KAIEN	鈴木慶太	就労支援の現場から ~就職してから大切なこと・学齢期から身につけておきたいこと~
		13:00~ 16:00		昭和大学大学院保健医療学研究科准教授 昭和大学附属病院内学級担当	副島 賢和	傷つきからの回復に必要なこと ~子どもの喪失によりそう~
第9回 【修了試験】 1月17日 (日)	ライブ オンライン	10:00~ 10:50	修了試験	認定NPO法人 EDGE	藤堂栄子	LSAの実際の体験(ケース)を通して討議、テスト 事例についてロールプレイング 受講生報告 今後の展望・課題
		11:00~ 12:00	ケース検討			
		13:00~ 15:00	ロールプレイング			
		15:00~ 16:00	修了式			